

臨床放射線

編集委員

後 閑 武 彦
橋 本 順
今 井 裕
栗 原 泰 之
森 壘
山 下 孝

編集協力委員

畠 中 正 光
小 川 恭 弘
松 永 尚 文
森 宣
村 田 喜 代 史

編集後記

▶ 明けましておめでとうございます。「胸部の最新画像情報 2018」をお届けします。各論文を一言で紹介しましょう。古谷清美論文は僕の苦手なクリプトコッカス症の質の高い総論です。細菌学、免疫、臨床情報（症状や検査）までカバーし画像診断を述べています。苦手意識のある人は必読です。佐々木康夫論文では、単純写真といって侮る勿れ、新技術が満載。森谷浩史論文は面 CT を用いて呼吸という dynamic な動作の中での形態学というユニークな視点で胸郭解剖学を捉えた著作。本多修論文は、びまん性陰影を呈する肺腫瘍というちょっと異質感があるが、様々な病態を極めて正確、オーソドックスにまとめあげた秀作です。北野庸論文はびまん性粒状影の鑑別診断の手引き書です。高浪健太郎論文は化学放射線療法による心臓合併症という極めてユニークな切り口の総論です。遠藤正浩論文は CT の新技術である非剛体レジストレーションの有効性について論じた新しい知らせです。渡邊裕陽論文は胸部の 3D 画像を用いて肋骨痕の描出の程度と間質性肺炎との関連を検証したユニークな論文です。3D 画像の画像診断への新しい応用で、目の付け所が斬新です。本田憲業論文はキセノン吸入とヨード造影剤による換気血流画像作成という新方法の話です。石村茉莉子論文は、右肺の静脈解剖について CT を用いた詳細な分析結果をまとめた力作です。小椋太地論文は、ECG 同期 SPECT と心臓 MRI の心機能指標を比較した研究です。大阪肇論文は、カテーテルによる FFR と Tc-MIBI 安静心筋シンチグラフィ 2 回撮影との関連を検証した研究報告です。そして 3 つの貴重な症例報告と今月の症例です。どうですか?まさに最新画像情報にふさわしい内容となっております。

▶ 一方、残念なお知らせもあります。実は長年続けてきた胸部の増大号は 2017 年が最後となりました。新年の開始は「胸部の増大号」とご理解いただいていた読者も多くいるのではないのでしょうか? 僕も胸部の専門家なのでとても残念です。是非、このちょっと厚い 1 月号をお楽しみください。

栗原泰之

「臨床放射線」第 63 巻 第 1 号

2018 年 1 月 10 日発行 (毎月 10 日発行)

定価 (本体 2,600 円 + 税)

年間購読料金 定価 (本体 39,700 円 + 税)

[年間 13 冊 (臨時増刊号を含む) の誌代]

年間予約購読者に限り送料無料

発行所 金原出版株式会社

発行者 福村直樹

〒113-0034 東京都文京区湯島 2-31-14

TEL 03 (3811) 7165 編集部直通

TEL 03 (3811) 7184 営業部直通

FAX 03 (3813) 0288

ホームページ <http://www.kanehara-shuppan.co.jp/>

振替口座 00130-1-191269

印刷所 三報社印刷株式会社

広告申込先 福田商店 TEL 06 (6941) 5600

FAX 06 (6941) 5605

本誌に掲載する著作物の複製権・翻訳権・上映権・譲渡権・公衆送信権 (送信可能化権を含む) は金原出版株式会社が保有します。

JCOPY <(社) 出版者著作権管理機構 委託出版物>

本誌の無断複製は著作権法上での例外を除き禁じられています。複製される場合は、そのつど事前に、(社) 出版者著作権管理機構 (電話 03-3513-6969, FAX 03-3513-6979, e-mail: info@jcopy.or.jp) の許諾を得てください。